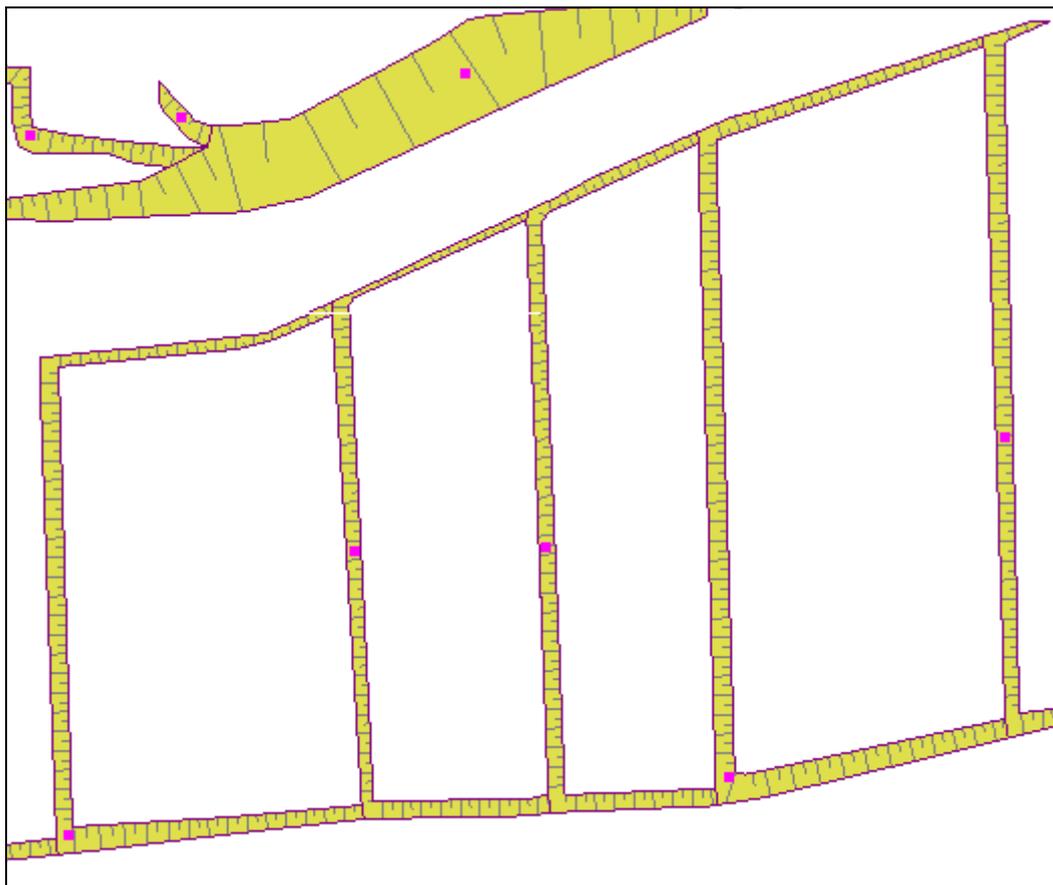
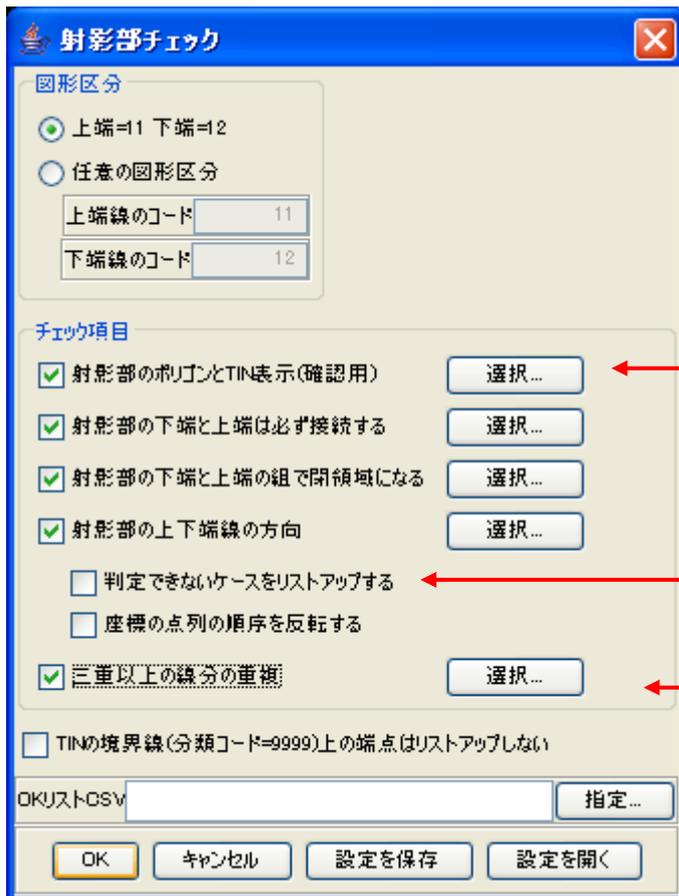


1. 射影部チェック

メニュー「チェック」の「射影部チェック」の「射影部の上下端線の方向」で、射影部のポリゴンが繋がって中空があるケースに対応しました。



また「射影部のポリゴンと TIN 表示」「判定できないケースをリストアップ」「三重以上の線分の重複」を追加しました。また、「射影部の上下端線の方向」で、射影部のポリゴンが繋がって中空があるケースに対応しました



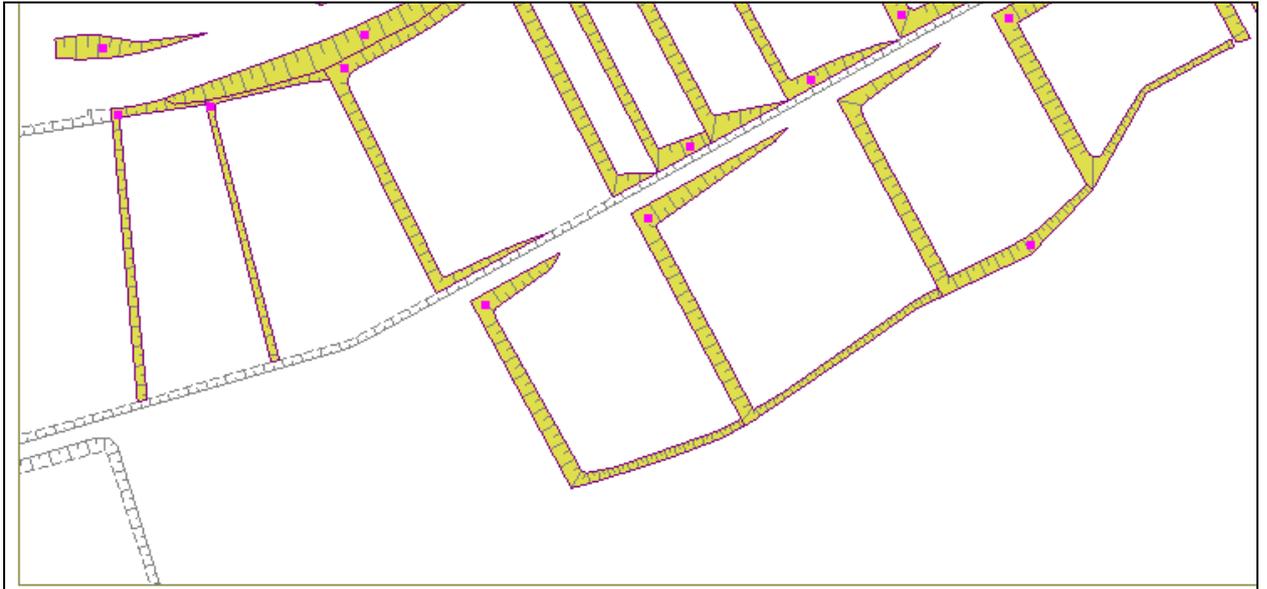
以下、説明書からの抜粋です。

【図形区分】

デフォルト(上端=11 下端=12)では、図形区分=11の上端線と12の下端線をチェックしますが、「任意の図形区分」では、指定されたコードを上端線、下端線とみなしてチェックします。

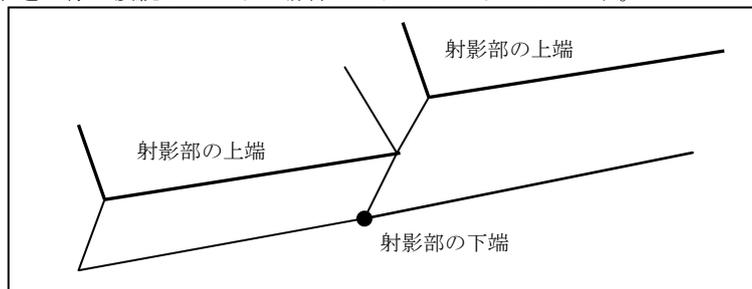
【射影部のポリゴンと TIN 表示】

射影部の上端線と下端線からなるポリゴンをチェックリストにリストアップし、ポリゴンの内側に TIN を発生し表示します。射影部の処理をするにあたって、ポリゴンとして認識できている部分を確認するための機能です。現状、射影部の線が図郭で切れていて、隣の図郭の DM がない場合、ポリゴンができない状況です。



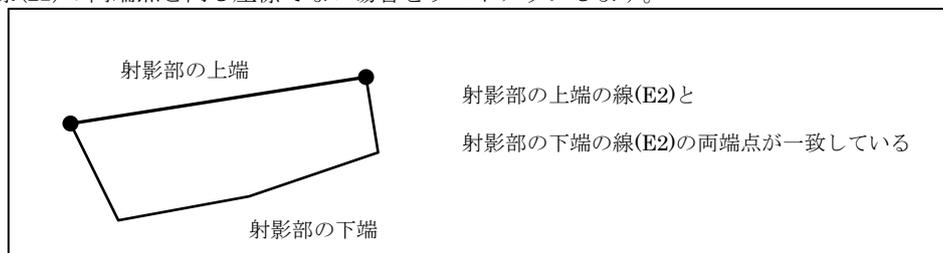
【射影部の下端と上端は必ず接続する】

射影部の上端の端点と下端の端点は必ず接続していることを確認します。接続していない端点をリストアップします。射影部の上端の線からネットワークを作り、ネットワークの端点について調べます。端点が射影部の下端の線上にあればOKとします。端点が射影部の下端の線上になくても、図郭線上であればOKとします。さらに、オプション[TINの境界線(分類コード=9999)上の端点はリストアップしない]がONの場合、端点が分類コード=9999の線上にあれば、地図取得範囲の境界で切れているケースとしてOKとします。ネットワークの端点について、上記のOK以外の点を[チェックリスト]にリストアップします。射影部の下端についても同様にチェックします。ネットワークの端点を調べる理由は、宅地などで射影部の線が分岐になっているケースでは、線(E2)単体の端点がからならずも上下逆の線に接続していない場合にエラーとしないためです。



【射影部の下端と上端の組で閉領域になる】

射影部の上端の線(E2)と下端の線(E2)の2本の組で、閉じた図形になるべき地物について検査します。線(E2)の両端点が上下逆の線(E2)の両端点と同じ座標でない場合をリストアップします。



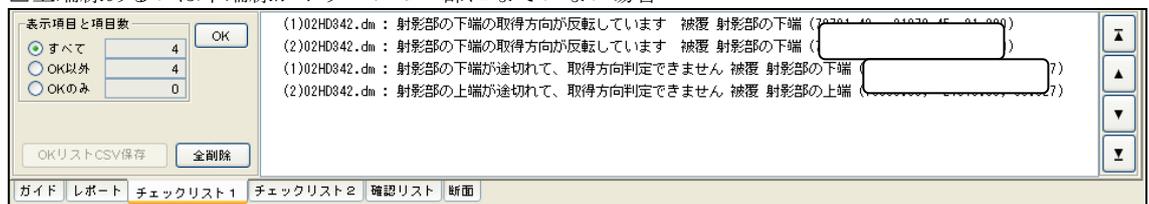
【射影部の上下端線の方角】

指定された分類コードの射影部の上端線・下端線について、線取得方向が反転している要素をリストアップします。



線取得方向の反転について判定できないケースがあれば、該当する要素をリストアップします。プログラム内部では、分類コード別にネットワークを作成し、接続関係を調べ、ポリゴンになっている部分となっていない部分をチェックします。

- チェック対象の分類コードの面 (E1) や線 (E2) が単独で閉じている (始点と終点が同じ座標) の場合
- 線が、射影部の上下端線からなるポリゴンにはさまれ場合
- 上端線あるいは下端線がポリゴンの一部になっていない場合



【判定できないケースをリストアップする】

このチェックで、射影部の上端線・下端線がポリゴンにならずに判定できないケースをリストアップします。

【座標の点列の順序を反転する】

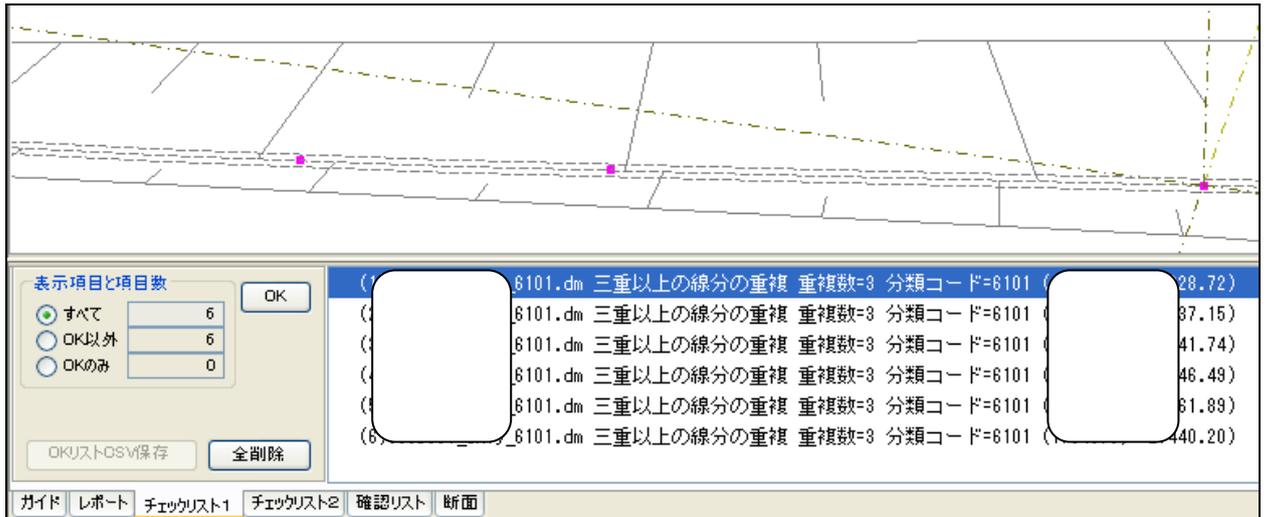
取得方向が判定していると判定された線について、座標の順番を逆にします。

「座標値」パネルに表示されている点を順に選択していくことで、[3D]パネルの選択された点の黄色い表示が動いていくことで確認できます。反転している要素については[座標値]パネルのポップアップメニュー[点列の順序を反転]で、本来の順序に修正することができます。

一旦、反転処理を行い、次のチェックでも同じ要素が検出される場合、一本の線が上端線と下端線の両方の部分を持っていることがあります。この場合、上端線と下端線の境で分割する必要があります。

【三重以上の線分の重複】

射影部の上端線と下端線全体の各線分について、線分の重なりが三重以上になっている場合を検出します。余分な下端線などの有無を検査するための機能です。



上図では、射影部の線を「垂直シフト表示」で上下にずらして表示しています。

【TINの境界線(分類コード=9999)上の端点はリストアップしない】

上記の「射影部の下端と上端は必ず接続する」あるいは「射影部の下端と上端の組で閉領域になる」のチェックで、端点が分類コード=9999の線上にある場合、リストアップしません。地図全体の領域の境界で射影部の線が切れているケースをエラーとしないためです。メニュー[TIN]-[TIN作成]でTINを作成し、メニュー[TIN]-[TINの境界]で、TIN全体の外周を分類コード=9999の線としてDMデータに追加できます。